

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	徳永 織恵	学校名	千葉市立椿森中学校
実施学年	中学3年生	教科	英語
単元名	Sunshine English Course3 Program6 The Great Pacific Garbage Patch		

《学びを深めたいポイント》

本時は、関係代名詞(目的格) which の導入の授業である。これまでの学習段階では"This is a pen." "I bought it yesterday."と、2文で表現していたことを、関係代名詞を使うことで、"This is a pen which I bought yesterday."と1文で表現することができるようになる大変便利な文法事項である。その一方で、学習者にとっては先行詞が何か分かりづらく、導入段階で苦手意識をもつ生徒が非常に多い。そこで今回は、「単語の並べ替え」で練習を行ってから「自分のことについての英作文」へ活動をステップアップさせることで、関係代名詞を使った文章の語順の定着を図りたい。

《SKYMENU 活用のポイント》

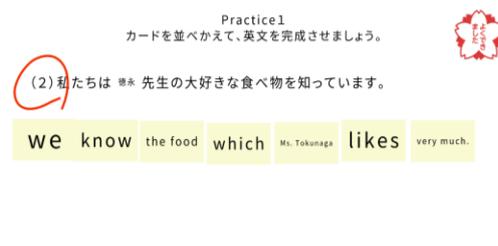
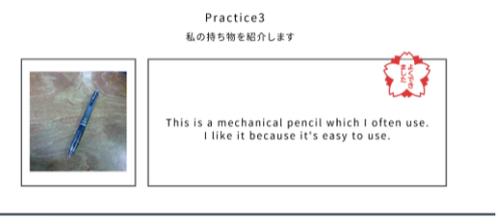
本時では、発表ノートを2つの場面で使用する。

1つ目は、文法事項の導入時に、関係代名詞の語順に慣れるための「単語の並べ替え」である。これは、単語が書かれたカードを並べ替えて、正しい英文を作る活動であるのだが、発表ノート内のカードを移動するだけなので、書くことに苦手意識がある生徒でも取り組みやすい。また、ワークシートに書かせるよりも、単語を書いたり書き直したりする時間を短縮することができるため、時間をかけずに語順を定着させるのに適している。

2つ目は、「自分の持ち物の紹介文を書く」活動である。この活動では、紹介したい持ち物の写真を添付し、その横に英文を書かせた。こちらも、ワークシートを使った活動の場合には、持ち物のイラストを描かせるのに時間がかかったり、紹介している物の詳細が相手に伝わりにくかったりするという難点があったが、発表ノートを使用することで、何についての説明文なのか一目でわかるようになった。また、英作文後の学級での発表会では、提出された作品を大型テレビに映して簡単に全体に共有することができるため、生徒の学び合いに繋がった。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	1. プレゼンテーションソフトを使って生徒に3ヒントクイズを出題し、学級全体で関係代名詞(目的格)のポイントを確認する。 2. モデル文を教師が範読し、生徒は繰り返し練習する。 3. 本時の学習内容を確認する。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 自分の持ち物を英語で詳しく紹介しよう。 </div>		

<p>展開</p>	<p>4. 関係代名詞(目的格) which を使った文の語順を練習する。</p> <p>5. 関係代名詞(目的格) which を使って、自分の持ち物を紹介する英文を2~3文で書く。その持ち物を気に入っている理由などを含めて書くように伝える。</p> <p>例) This is a pen which I use every day. I like it because my sister bought it for me.</p>	<p>○発表ノートのテキストボックスを単語カードとして活用し、正しい英文になるように単語を並べ替えさせる。</p>  <p>○紹介したい持ち物の写真を撮影し、発表ノートに添付させる。</p> <p>○添付した写真についての説明文をテキストボックスに記入する。記入の際は手書きでもよい。</p> 	<p>○テキストボックスを使用することで、実際にワークシートに記入させるよりも短時間で文法事項の練習に取り組むことができる。また、カードを移動するだけなので、書くことに苦手意識がある生徒でも取り組みやすい。</p> <p>○生徒が使いそうな表現や身の回りのモノの名前などは、あらかじめリストにして、ノートに添付しておくこと、英語に苦手意識のある生徒でも取り組みやすい。</p> <p>○撮影した写真を添付させることで、何についての紹介文なのか一目でわかるため、生徒の作品に的確なアドバイスをすることができる。</p>
<p>まとめ</p>	<p>6. 関係代名詞(目的格)のポイントのまとめを行う。</p>	<p>○数名の生徒を指名し、自分の作品を紹介させる。</p>	<p>○作品を大型テレビに映し出すことで、良い作品のポイントを学級で共有することができる。</p> <p>○生徒が提出した作品はアドバイスを記入し返却する。期間内であれば生徒は作品を何度も再提出することができる。</p>

《実践を振り返って》

今回紙媒体ではなく SKYMENU 発表ノートを使用したことでの利点は主に3つである。

1つ目は、英語が苦手な生徒でも練習に参加しやすいという点だ。関係代名詞のように、語順に気をつけてほしい文法事項を導入する場合、紙媒体を使用しての授業だと、書く活動に苦手意識がある生徒の作業が進まないということがよく見られた。しかし、テキストボックスの並べ替えを取り入れたところ、英語を書かなくても活動に参加できるという手軽さから、多くの生徒が間違いを恐れずに問題に挑戦することができた。

2つ目は、生徒同士での学び合いの機会が増えた点だ。提出された作品を即時に大型テレビに提示することで、他の生徒の作品の良い表現を参考にして、自分の作品をよりよいものに仕上げようとする生徒が見られた。

3つ目は、教師による作品の添削と返却作業の効率が上がったことだ。従来の紙媒体での英作文では、ワークシートの提出の有無の確認や、ばらばらに再提出されるワークシートの管理などに時間と手間がかかっていた。しかし、SKYMENU を使うことで、一目で生徒の提出の有無がわかるようになったとともに、再提出用に新しく提出ボックスを作ることで管理もしやすくなり、添削作業の効率が上がった。添削後は一括でノートを返却することができるので、授業中に作品を返却する時間を短縮できたことも、限られた授業時間を有効活用するのに役立った。